

2005年度第3四半期決算発表

2006年1月31日
アステラス製薬株式会社



企業価値の継続的向上をめざして

1．好調な業績

- 増収・増益
- 国内事業の好調
- 欧米事業における主力製品の拡大及び新製品の寄与
- 製造原価低減・経費の効率的活用
- 合併シナジーの創出

2．中長期継続成長のためのパイプラインの強化

- “ Speed to Market ”、新薬開発の加速
- 導入活動の積極的展開

決算概況

(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	05 予想	ポイント
売上高	6,667	6,788	+121	8,850	先行送品-119、販売移管-63 事業整理-58、加工売上-52 ゼファーマ+68
売上原価 売上高比率(%)	2,195 (32.9)	2,084 (30.7)	-111		製品構成 1.0ポイントの改善 原価低減 0.7ポイントの改善 加工売上 0.5ポイントの改善
売上総利益	4,471	4,703	+232		売上の増加 原価率の改善
販売管理費 売上高比率(%)	1,883 (28.3)	1,950 (28.7)	+66		日本は人件費を中心に減少 欧米は販売促進費を中心に増加
研究開発費 売上高比率(%)	901 (13.5)	925 (13.6)	+23	1,350 (15.3)	ライセンス費用の増加(+105) 合併効果による経費活用の効率化
営業利益 売上高比率(%)	1,685 (25.3)	1,827 (26.9)	+141	2,050 (23.2)	売上総利益の増加 経費の増加抑制

為替： 1ドル=112円(前年同期108円)、1ユーロ=137円(前年同期135円)

決算概況

(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	05 予想	今期のポイント
営業利益	1,685	1,827	+141	2,050	
営業外収益	92	136	+43		欧州子会社での為替差益48
営業外費用	77	38	-39		製品等除却損 23
経常利益	1,700	1,925	+224	2,110	営業利益の増加 営業外収支の改善
特別利益	61	44	-16		固定資産売却益 12 投資有価証券売却益 23
特別損失	270	219	-51		事業統合費用 142 減損損失 61
税引前 当期純利益	1,490	1,749	+258		経常利益の増加 特別損益の改善
当期純利益	869	1,076	+207	1,170	

グローバル製品



(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	05予想	今期のポイント
プログラフ	961	1,098	+137	1,419	
国内	80	109	+28	137	物量伸長率29.3% (薬価ベース) 移植の増加、リウマチの寄与
北米	516	563	+46	730	シェア54%、処方箋シェアも好調に推移
欧州	290	328	+37	429	スペイン、北欧等で好調、移植件数も増加
ハルナール	1,032	1,052	+19	1,349	
国内	377	361	-16	470	物量伸長率 0.5%・シェア56% (薬価ベース) 後発品の想定シェア：8%
欧州	335	383	+48	476	TOCASの発売は9ヶ国。独・蘭は好調、英はカ プセル並行輸入の影響で苦戦
バルク等	287	264	22	348	アボット撤退に伴う在庫調整(1ヶ月分)により減 少
プロトピック	164	105	-58	167	
国内	19	19	-0	30	
北米	100	46	53	82	処方箋は約35%の減少。 2006年1月に米国で添付文書を改訂
欧州	40	37	-3	53	

グローバル新製品

(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	05予想	今期のポイント
ファンガード /マイカミン	106	120	+14	186	
国内	106	114	+7	160	シェア:50%、物量伸長率4.6% 3Qに入り、他剤との競合が激化
北米	-	6	+6	26	昨年12月に新発売時の流通在庫を解消 売上は徐々に立ち上がってきている
Vesicare	8	93	+85	172	
北米	-	45	+45	100	12月単月では約10億円の売上を達成 直近のNRxシェアは7%強、TRxは6%程度 競合が激しい中、売上・シェアとも順調に伸長
欧州	8	48	+40	72	12月単月の欧州でのシェアは約14%に到達 オランダ、スペインでは第2位

国内主力製品

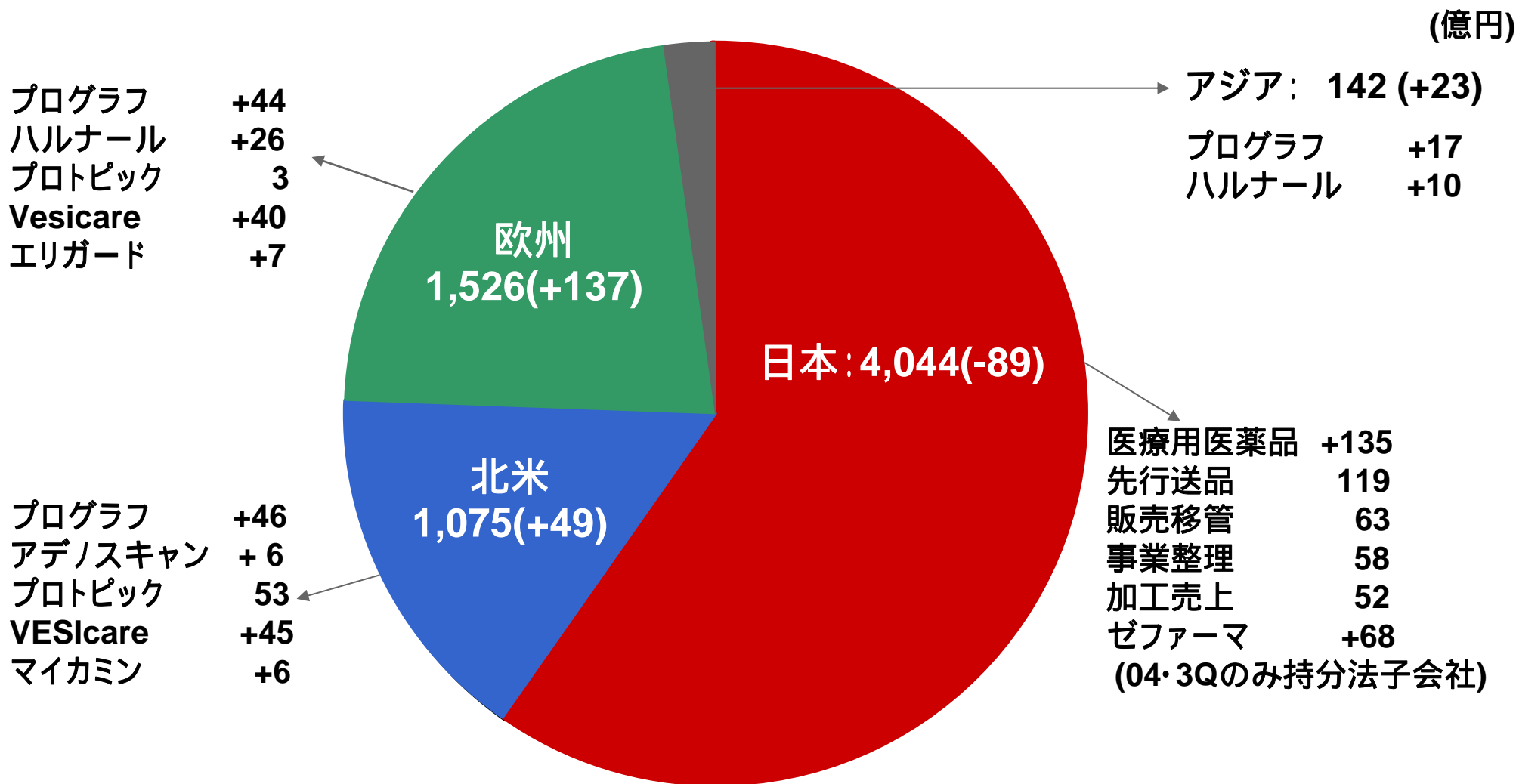
(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	05予想	今期のポイント
リピトール	666	713	+47	925	シェア38.3% 物量伸長率+12.1%
ミカルディス	180	284	+104	370	シェア10.7% 物量伸長率+68.6%
マイスリー*	101	132	+31	168	シェア27.2% 物量伸長率+21.5%
ルボックス*	68	81	+12	110	シェア7.9% 物量伸長率+10.5%
ガスター(Rx)	564	541	23	687	シェア28.8% 物量伸長率-0.3% (内服は+0.7%)
セフゾン*	138	150	+12	200	シェア20.4% 物量伸長率-5.9%
セロクエル*	100	120	+19	162	シェア15.8% 物量伸長率16.7%

注：* 製品の04年3Qの売上高の実績は決算ベース。それ以外の製品と05年3Qの実績は仕切価ベース。
物量伸長率は薬価ベース。

所在地別売上高

05・3Q連結売上高：6,788億円(対04・3Q：+121億円)



所在地別営業利益

(億円)

	04.3Q	05.3Q	増減	増減要因
連結	1,685	1,827	+141	
日本	1,377	1,400	+22	売上総利益の減少 販売管理費の減少(人件費、販促費等) 研究開発費の増加(ライセンス費用等)
北米	245	206	39	売上総利益は横ばい 経費の増加 (新製品及び主力製品の販売促進費等)
欧州	113	245	+132	売上総利益の大幅増加 (自社販売ビジネスの好調、 米国ベシケアの寄与) 経費の増加(新製品の販売促進費等)
アジア	22	30	+7	プログラフ、ハルナールの好調
消去	-73	-55	+18	

パイプラインの状況

開発中の新薬
新規導入プロジェクト



Vesicare: Scrip Award 2005 “Speed to Market” 受賞

受賞理由: 2004年7月から1年間に上市された薬剤の中で、
VesicareはP-I開始から最短期間で欧州で発売

Vesicare: 75ヶ月 (平均: 99.3ヶ月)

➡ 成功経験を開発加速の原動力に



新薬開発の順調な進展

主要テーマの変動(2005年11月以降)

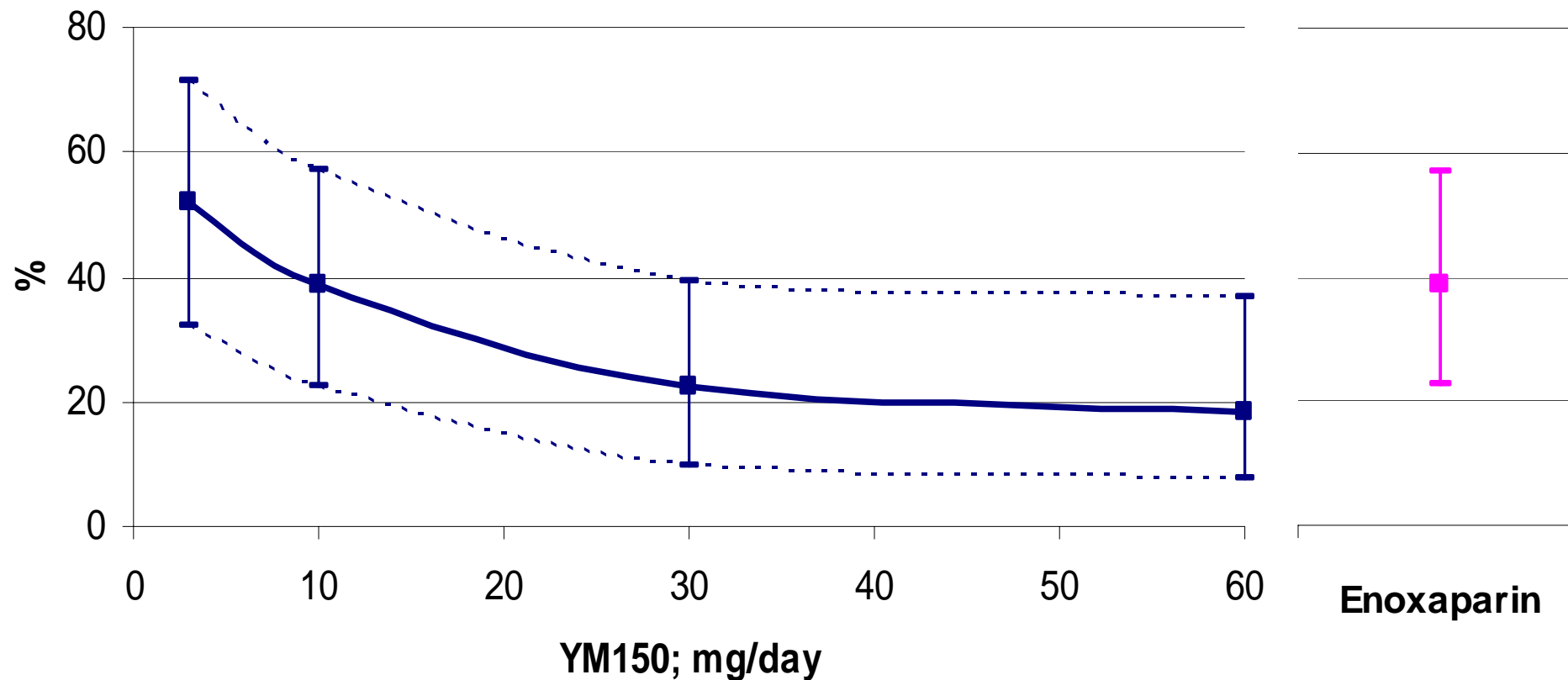
	概要	地域	申請準備中	申請中	承認
Vaprisol (YM087)	体液正常型の低ナトリウム血症	米国		★ →	★
FK506 MR	プログラフ1日1回製剤	米国 欧州	★ →	★	
YM060	下痢型過敏性腸症候群	日本	★ →	★	

新規テーマ

	地域	適応症	作用機序	剤形
YM672 (IPD-1151T)	欧米 P-II	間質性膀胱炎	Th2サイトカイン産生抑制	経口
YM617	米国 P-II/III	神経因性の排尿障害 (小児適応拡大)	1受容体拮抗	経口

YM150 P-IIa結果

投与期間中の静脈血栓症の発現率



--- Upper 95% CI —■— Point estimate --- Lower 95% CI

2005年12月ASH

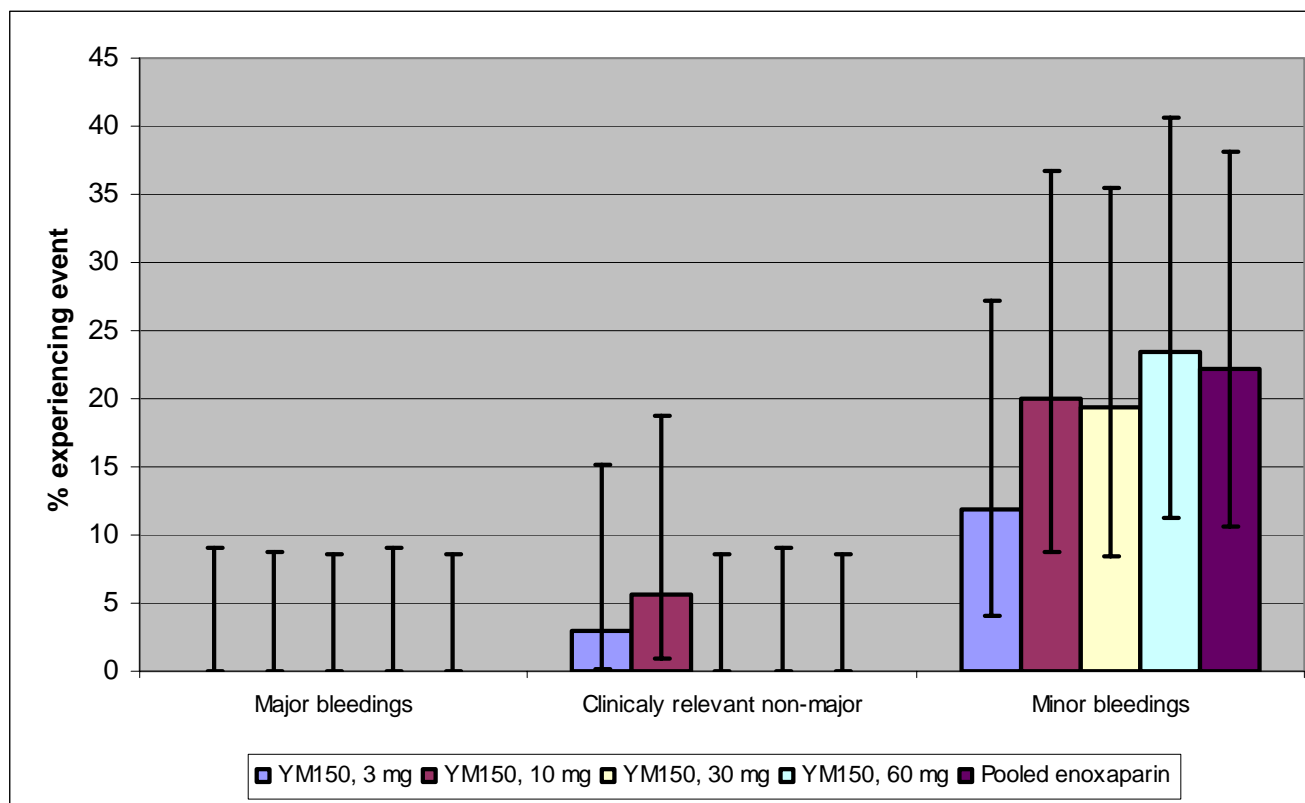
対象 股関節手術後患者

投与期間: 7 - 10日間、症例数: 174例

投与群 YM150 3,10,30,60mg (1日1回、経口)、enoxaparin 40mg(1日1回、注射)

YM150 P-IIa結果

- Major bleeding (生命に関わる重大な出血) は認められなかった。
- Clinically relevant non-major bleeding (術創部の血腫、軽～中等度の吐血)、Minor bleeding (主に術創部からの軽度の出血) に用量依存性は認められなかった。



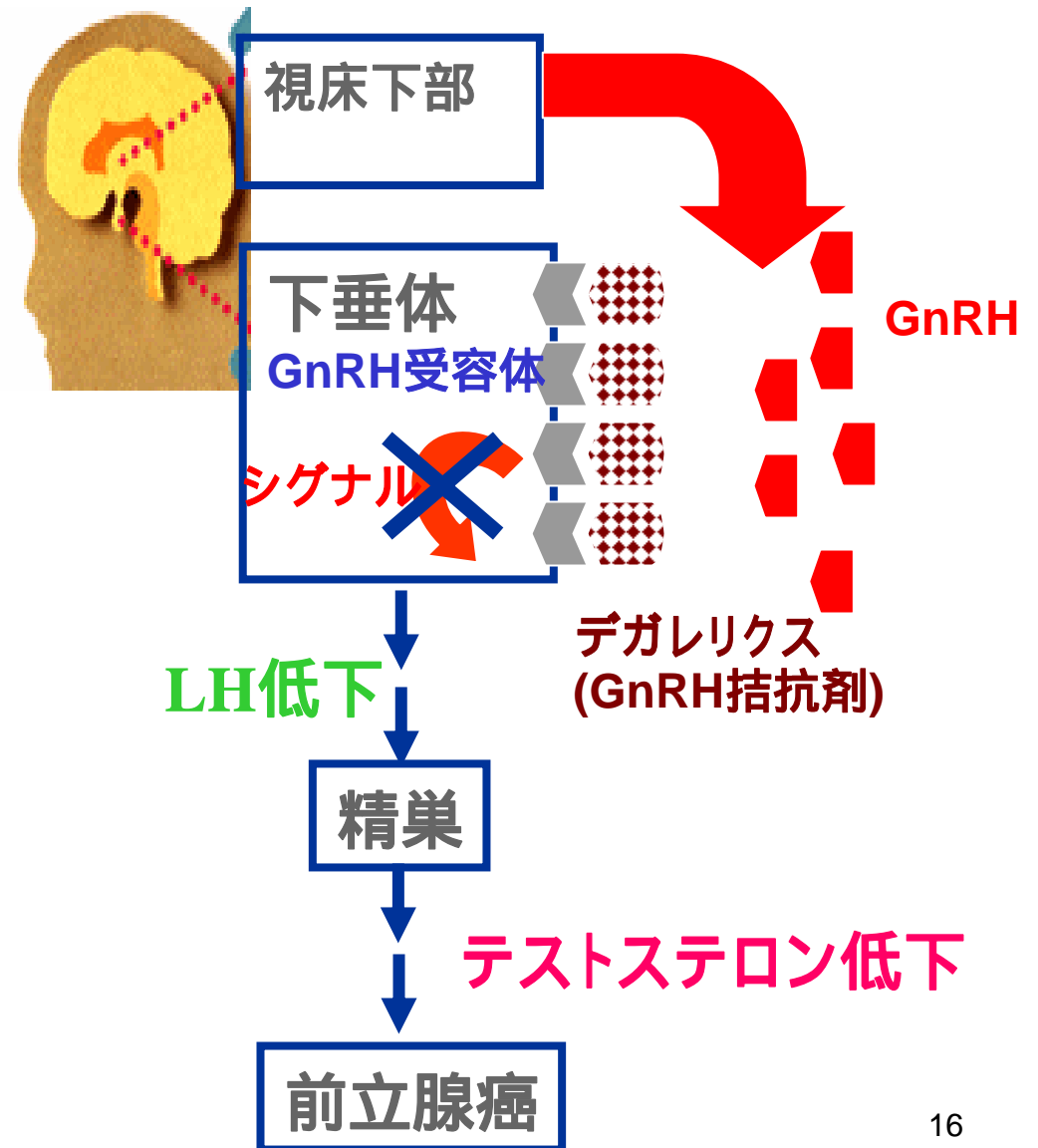
導入活動の成果

感染症、泌尿器、中枢(糖尿病)領域でパイプラインを強化

	地域 開発段階	適応症	剤形	導入元
テラバンシン	欧米 P-III	複雑性皮膚・軟部組織 感染症、院内感染	注射	テラバンス
XP13512	日本・アジア P-I	糖尿病性神経障害 下肢静止不能症候群	経口	ゼノポート
T 3811 ガレノキサシン	日本 申請準備中	呼吸器感染症等	経口	富山化学
Degarelix	日本 P-I	前立腺癌	注射	フェリング

デガレリクス - 泌尿器領域の強化 -

締結日 2006年1月30日
一般名(INN) Degarelix
適応症 前立腺癌
作用機序 GnRH拮抗
剤形 皮下注射(デポ製剤)
開発段階 P-I
地域 日本
導入元 フェリング社
条件等 独占的開発・販売権



T-3811 (ガレノキサシン) - 感染症領域の強化 -



- 基本合意日 2006年1月26日
(2006年3月31日までにライセンス基本契約締結の予定)
- 適応症 呼吸器感染症・耳鼻科感染症等
- 作用機序 キノロン系合成抗菌剤
- 剤形 経口剤
- 特性 既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に強い抗菌力を示す
- 開発段階 申請準備中、2006年前半に申請予定
- 地域 日本
- 導入元 富山化学

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等は、現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣による判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定及び考えに基づきなされたものであります。実際の成果は、さまざまな要素によりこれら業績見通し、開発見通し等とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社既存及び新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

医薬品(開発中の物を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。